

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター高丘担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 7 月 18日 （木） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	北部協働センター 第2・3講座室
3 参加者	26名 協議体委員15名、関係機関11名（高齢者福祉課2名、長寿支援課1名、包括高丘3名、市社協地域支援課1名、市社協浜松地区センター4名）
4 協議の内容	認知症に優しい街づくりについて
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 会長 新規委員、関係機関紹介</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1) 協議体会議について</p> <p>(2) 昨年度の振り返り 第1回会議：協議体から地域への情報発信・広報誌について 第2回会議：協議体から地域への広報誌について（テーマごとに掲載内容を検討） 第3回会議：広報誌の配布について、次年度の取り組みについて パワーポイントの資料を用いて前回・昨年度の振り返りを行った。</p> <p>(3) グループワーク「第1号 “にも通信” について、地域での反応、耳にしたことなど」</p> <p>Aグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> * 写真が載っているのでも「見たよ」と言ってもらえた * 単身だと気づきシートも活用されないのではないか、チェックシートを大きくした方が良い * 通信を見て パーシモンのボランティア参加の希望者があった * 身近に感じる人には目に留まったのではないかと * サロン・シニアクラブでの配布する方が目に止まるのではないかと（配布してもしまってしまう人も） * シニアクラブへの参加率が上がってきている * 認知症の相談が少し増えた（民生委員） * 集いに出ている人は 認知症の疑いがある人を気にかけることができている * 本人には自覚がないため、周りの人が様子を見ている（見守っている） * 様々な事象があった場合、自治会役員のグループ LINE で常に共有している 自宅が分からなくなり帰宅できない人を発見し家族へ連絡することができた 	

本人も家族も気づかない場合がある

*コロナ後でも小学生と高齢者の交流は 以前と比べ増えていない

B グループ

*地域での反応は特に耳にしない

*回覧でどのくらい見られるか不明・・・

*居場所に関する問い合わせがあった

地域版（自治会単位）と全体版（圏域単位）があっても良いのでは
相談できる機関など つなぎ先の連絡先など

*自分が介護に近い年代になると（立場）になると気持ちが分かってくる

*車がきているのに、自信を持って横断してしまう、注意が散漫になっている

*テキパキと動けなくなってきた

*モノの名前が出てこない 少しずつ認知症のサイン??

*何度も同じことを話す人がいる

*問い合わせ先⇒もっと大きく目立つようにした方が分かりやすい

*カフェなど つなぎ場所がわかれば

*QR コード ホームページなどの活用、地域ごとに内容も変える

*文字が多いのもっと写真やイラストを増やした方が見やすいのでは

*もう少しカラフルにすれば目立つと思うが

C グループ

*実際に介護する人たちの役に立つものがあると良いのでは

*島田市では、認知症かなと思った時に行政の配布物で丁寧に Yes-No 方式で情報が得られるような工夫されている冊子がある

*浜松では初期段階で目に見えるものが少ないと感じる、認知症ケアに関する体制づくりは充実していると感じる

*徘徊する方など GPS 機能を持った「タグ」（身に着けるもの）を無料配布するなどの取り組みなどが良いのでは

*特に通信についての声は聞こえてこない

*色味が地味でインパクトに欠けたのではと思われる

*協働センターに認知症について学びたいとの問い合わせがあった。どこで、どんなことが学べるなどの情報発信があると良いのではと感じた

*世代により認知症の症状や介護者の考え方に違いがある、時代背景や生活環境の違いで特徴が表れる時がある

*サロンやシニアクラブには認知症予防として、広く呼びかけ、何とか一人でも多くの方に参加してもらうよう工夫をしている

*地域のサロンで麻雀を取り組んだら 参加してくれる方が増えるのではと検討している（小豆餅）

*協議体の委員で介護経験者が少ないのではないかと、実際の経験者が必要なことなどを発信することに意味があるのではないかと

*介護者の負担や思いが届かない状況である

*介護期間は5年～10年程度が一般的

4. 全体共有

各グループで出た意見を全体で共有した。

5. 改めて 認知症講座

地域包括支援センター高丘による認知症講座

6. 事務連絡 第2回開催日程について

令和6年10月頃開催予定、事前打合せは9月を予定

日程と会場の調整を行い、改めて案内することです承していただいた。

7. 閉会 副会長

**5 今後の見通し・
必要な対応**

昨年度の引き続き認知症についての情報発信を行っていく中で「にも通信第2号」の発行を検討していく。

地域への認知症予防について情報提供を行いながら、地域の活動に参加しながら実情調査を進めていく。